

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 金・3	必修選択 選択	単位数 2 単位
授業科目/(英語名)	人間の科学 (-性と生-) Human Sciences (-Sexuality and Life-)		
対象年次 1・2 年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:宮原春美他 /Eメールアドレス: spring@nagasaki-u.ac.jp /研究室:医学部保健学科 /TEL:095-819-7954 /オフィスアワー:メールにて随時			
担当教員(オムニバス科目等)	安日泰子、酒井英樹、井田洋子、宮原春美		
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>本講座は「人間の性とは何か」についてアプローチする。</p> <p>近年、人々の性行動や規範は解放されてきたが、人々の生涯を豊かにする「人間関係としての性」の学習は保障されていない。この学習の不在に加えて、インターネットを頂点とするあふれるメディア情報に翻弄されているのが現代社会の姿ではなからうか。</p> <p>人間の性は本能ではなく学習により獲得されることが一つの特徴である。</p> <p>「性」をテーマとして、自己と他者への思考を深め、性情報の取捨選択能力を培う。それらを通し、今後における個々人の豊かなセクシュアリティ確立とモラル形成を図る。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>以下の授業内容に応じて担当教員がそれぞれの専門分野から講義を行う。</p> <p>1, 2回: 人間の性(セクシュアリティ)とは何かについて考える。</p> <p>性科学で明らかにされてきた学際的な事実を知る。進化の過程からみたヒトの性の特徴、キンゼイレポートに始まる人々の性に対する様々な調査結果、マスターズ・ジョンソンが実験的に明らかにした「人間の性反応」などを学習する。まとめとしてWHOの定義した「セクシュアリティ」という概念について学ぶ。</p> <p>3回: 性別(セックス)の成り立ちの意味を科学的、社会的に学ぶ。またフェミニズムの視点から、ジェンダーについて学ぶ。</p> <p>4~6回: 人間の体の仕組みを「性の視点」から学ぶ。</p> <p>相互の理解と尊重のために、基本的な性器の構造と生殖(妊娠・分娩)の仕組みを学習する。特に情報の乏しい男性の身体についても学び、セックスや性器に関する誤解を是正し、正確な性情報の選択能力を培う。</p> <p>7回: 性感染症の具体的な知識を得ることによって、若年世代での性感染症蔓延やの実態を認識する。性的健康を可能にする行動やパートナーとの関係性について考える。AIDSを始めとする性感染症の最新情報を得る。</p> <p>8~10回: リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて学ぶ。</p> <p>リプロダクティブ・ヘルス/ライツについて概観し、そのいくつかの健康課題について具体的な学習を通して豊かな男女の関係をいかに築くかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 人工妊娠中絶に関する法律とその歴史的背景について 避妊法(低用量ピル、緊急避妊法、コンドームなど)の進歩と実際について 健康教育としての性教育の理論とその実際について <p>10, 11回: 人間関係としての性を考える。</p> <p>個人のあり方はその時代の男女の社会関係そのものであり、社会的視点から愛、家族、結婚等について考える。</p> <p>12~15回: 人間の性の多様性を学ぶ。</p> <p>文化人類学的な視点から性の多様性を知る。また基本的人権の視点から障害者、高齢者、同性愛者、トランスジェンダーなどについて学ぶ。またレイプ、ドメスティック・バイオレンス、性的虐待、性の商品化などの現況を把握し、性行為における同意の質を考える。</p>			
キーワード	セクシュアリティ、ジェンダー、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、同意、関係性、多様性		
教科書・教材・参考書	<p>講義はプリント資料、ビデオ、あるいはスライド等により行う。特にテキストは指定しない。</p> <p>参考図書:</p> <p>「人間の性とは何か」ミルトン・ダイメント(小学館)、「セクソロジー・ノート」村瀬幸浩(十月舎)</p> <p>「ジェンダーの西洋史」井上洋子他(法律文化社)、「性現象論」加藤秀一(勁草書房)</p> <p>「Human Sexuality in a World of Diversity」Rathus, Spencer A. (Allyn&Bacon)</p> <p>「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」北村邦彦(メディカ出版)、「中絶論争とアメリカ社会」荻野美穂(岩波書店)、「ニューキンゼイレポート」(小学館)、DVD「愛についてのキンゼイレポート」</p>		
成績評価の方法・基準等	各授業担当者毎に小テストを行う(40%)。また最終的なまとめとして課題レポート(40%)を提出する。授業への貢献度(20%)が悪い場合は評価の対象としない。		
受講要件(履修条件)	教室の収容定員を超える場合は受講制限を行う。 その場合、科目が指定選択となっている学部の受講者を優先する。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標	知識習得だけではなく、「性」をテーマとして、自己と他者についての思考を深めることを目標とする。		
備考(準備学習等)	参考図書等により授業前後の自己学習を行う。		